

ひとを育てる活動

将来の進路を考えて公立に転出しました

— SCMSI 校を通じて支援の里子の現況報告より —

例年10月発行の会報に同封させていただく SCMSI の里子報告、今年度は大分遅れて、12月も下旬になって届きました。しかも添付された子どもたちの手紙には約1年前に書いたと思われる2019年末のクリスマスギフトやカードに対する里親への礼状などもあり、教育現場も大きな影響を受けたコロナ禍の1年を象徴するように、航空便の中身はいつになく多種多様でした。そのうちここでは、シニアハイスクール進学にあたって、SCMSI 校からの転出を決めた「里子」の一人ダイアナについて、里親に宛てた手紙（要旨）を以下ご紹介します。

お元気ですか。世界中がコロナ感染に揺れる中、フィリピンも例外ではなく、4、5月の夏休みも、感染の恐れの中で過ごしました。また、シニアハイスクール進学に当たっては、将来カレッジで専攻したい進路の関係で、STEM（科学・技術）コースのある公立を選択、SCMSI 校を去ることになりました。



STEMに進むことにはしましたが、実は数字に弱く理数が苦手です。しかし最近読んだフランシス・ベーコンの「新しいことを始めるには古いものを壊さなくてはいけない」を心にとめて頑張りたいと思います。（写真：チボリダンスが得意なダイアナ）

奨学生及びクリスマス報告

— CMIP 事務局チャリスより —



クリスマス寄付ありがとうございました。カレッジやハイスクール生には民族衣装のマロン（写真）やタオルを、小学生には自宅学習用文具を贈りました。

なお、ボルールの自宅ではオンライン受講が難しいからと、ダバオのアパートに残っていた医大生ジェニーは、新年から他のカレッジ生と同じノビシエート寮に移り、ジェーン ダバオ医大3年後期の授業をオンラインで受けています。（GFC3年）

当団体支援地域における人材育成に貢献いただいているカレッジ奨学金2件のご紹介

大学女性協会(JAUW)東京支部奨学金、及び、高山奨学金

ピラーンの民族文化継承にも熱心なバネッサ(JAUW奨学生)



クリスマスギフトのマロンを手にするバネッサ

リーダーシップのある女性育成という趣旨で、2010年度から継続してご支援いただいている JAUW 奨学金。昨年度からはピラーンの村キアミ出身でハイスクール英語教師を目指すバネッサが受給。推薦人であるカトリック組織 /PC-JPIC のセシールさんの「これまでに出会った学生の中で最も優秀で統率力もある」という評価通り、当団体奨学生と一緒に過ごすノビシエート寮では寮長も務めています。

レイクセブ町辺境での代替学校 ALS

— 短信 —

10か月の ALS 在籍期間中に週1回計40日は教室での授業出席が義務付けられている代替学校。先住民民族学校の教室を使用した11/2の農業畜産クラス



初日はアニータ先生によるオリエンテーションで、計5名が参加。今後は農業省専門家も講師に招く予定で交渉中です。

ともに教師を目指すシリルとチャーメイン（高山奨学生）



先住民民族学校/ILSのアニータ先生の推薦で奨学生となり、昨年8月にコロナダルの市のNDMUに入学した2人。対面受講のため登校した時は、昼休みを利用してNDMU民族文化コーナーの ILS ハンディクラフトブースの店番を、また、在宅でのオンライン受講の合間には、ILS の子どもたちのための自宅学習用教材作りに参加（写真）、コロナ禍によるプリントづくり等の慣れない作業で負担が増す教師の貴重な助っ人になっています。

先住民民族学校/ILSのアニータ先生の推薦で奨学生となり、昨年8月にコロナダルの市のNDMUに入学した2人。対面受講のため登校した時は、昼休みを利用してNDMU民族文化コーナーの ILS ハンディクラフトブースの店番を、また、在宅でのオンライン受講の合間には、ILS の子どもたちのための自宅学習用教材作りに参加（写真）、コロナ禍によるプリントづくり等の慣れない作業で負担が増す教師の貴重な助っ人になっています。

上記奨学金は送金業務や現況報告は当事務局が、収支については当団体会計には含まない形でかかわらせていただいています。